

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語A	国語B
本校	74.0	64.0
広島県	73.0	59.0
全国	70.7	54.7

本年度の結果について

- 取組の成果と課題
  - ・昨年度の各種学力調査結果から、①叙述を基に想像を広げながら読み取ること②情報の取り出し③目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くことに課題があった。そこで、次の4点を工夫して取組を行った。①国語科における授業改善②未読の問題に数多く当たらせること③読書量を増やす取組としての必読書月間の設定④定着が低い児童への個別指導である。その結果として、全体として、新しく当たる未読の問題の意図を理解し、必要な情報を読み取る基本的な力や書く力は徐々に着いてきている。しかし、目標や意図に応じ、いろいろな情報を取捨選択しながら、内容の中心を明確にして詳しく書くことが課題として残った。
- 今年度の調査から新たに明らかになった課題
  - ・「敬語の理解(50.0%)」「同音異義語(50.0%)」など、すべての児童における基本的な言語事項の確実な習得が求められる。
  - ・「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く(25.0)」「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える(50.0)」など、問題の目的や意図を的確に把握し、主体的に読んだり書いたりしていくことに課題がある。

重点課題

- <A問題>
  - ◎【話を聞いている様子の一部】の□・□に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する。(敬語の理解) 50.0%(全国通過率差-6.0%)
  - ◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。(同音異義語) 50.0%(全国通過率差-1.4%)
- <B問題>
  - ◎【おすすめする文章】の空欄に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く。(目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。) 25.0%(全国通過率差+11.5%)
  - ◎「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に空欄のように書いた理由として適切なものを選択する。(目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える。) 50.0%(全国通過率差-7.6%)

標準学力調査に向けた重点取組

- ・次の視点に重点を置いた授業改善を行う。
  - ①低学年のうちから、基本的な物語文・説明文の基本的な構造について、確実に読み取る力をつけていく。
  - ②文章(図・表・グラフなども含む)の中から必要な情報を取り出し、考え整理し、論理的に短時間で説明する(作文する)学習活動を仕組む。
  - ③様々な話題を扱った説明的文章に数多く触れさせるとともに、筆者の目的や意図を考える視点に立った文章の読み取り(全体の構成の効果を考えるなど)や主体的に読んだり書いたりする学習活動を仕組む。
- ・児童にとって未読の読解問題に数多く当たらせ、問題に慣れさせる。
- ・朝のチャレンジタイムでミニテストを継続して行って行く。(ひらがな・かたかな・漢字・ローマ字)
- ・選定した必読書を読ませる「必読書週間」を設定し、まとまった量をすらすら読む力を各学年でつけさせる。
- ・通過率40%未満の児童に対しては、つまずきを把握し、簡単な問題から克服させていくことで学習意欲を持たせ、個別指導を継続していく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。</li> <li>・改善計画を作成し、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員に改善計画の周知を図る。(学向委)</li> <li>・「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。</li> <li>・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。</li> <li>・必読書の読書状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> <li>・H30「全国学力」の検証をする。(伸びを見る)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30「標準学力調査」誤答分析とつまずきに対してのフォローアッププリントで克服する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定テスト(まとめのテスト)の結果の交流。</li> <li>・各学年の誤答分析と対策を実施する。(表休み)</li> </ul>
児童への取組	物語文・説明文中の言葉を根拠に、短時間で自分の考えを書かせる指導の実施/日常的に読書量を増やし、語彙を増やす指導の実施							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年課題のあった設問の復習をする。(ぐんぐんタイム)</li> <li>・全学年物語文・説明文などの授業改善の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト『必読書週間』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・学期末テスト</li> <li>・6年生H30「全国学力」テストの実施、解説。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【検証】標準学力調査 目標値 全学年通過率80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト『必読書週間』</li> <li>・5年生H30「全国学力」テストの実施、分析、課題克服。(通過率75%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該学年の検定テスト実施</li> <li>・つまずきに対してフォローアッププリントで克服する。</li> </ul>

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	算数A	算数B
本校	63.0	58.0
広島県	66.0	54.0
全国	63.5	51.5

## 本年度の結果について

○取組の成果と課題  
 ・昨年度の各種学力調査結果から、①四則混合の計算②平面図形の条件の理解③ある問題場面と式の対応④割合の理解に課題があった。そこで、次の4点を工夫して取組を行った。①ペアや集団で自分の考えを図や表、算数用語を用いて説明する授業づくり②「ぐんぐんタイム」の確実な実施による基本的な計算力の定着③定着率が低かった問題の反復学習④定着が低い児童への個別指導である。その結果として、全体として、四則計算や図形の理解など、基本的な知識及び技能は習得できている。しかし、題意を読み取り、与えられた情報を正しく読み取ったり、それをもとに正しく立式し、答えを出していったりするような、段階的に思考する問題に依然として課題がある。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題  
 ・「直径と円周の関係(25.0%)」など、算数用語が表す相互の関係性について理解できていない。「単位量当たりの大きさ(25.0%)」など、問題中の式が何を意味しているのか商との関係が理解できていない。「棒グラフと帯グラフから読み取れる情報を適切に判断する(0.0%)」「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。(12.5%)」など、複数の情報を正しく読み取り、相互に関連させながら正しい答えを選択することができていない。

## 重点課題

<A問題>  
 ◎円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ。  
 (直径の長さと円周の長さの関係についての理解) 25.0% (全国通過率差-30.6%)  
 ◎ウとエの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。(単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解) 25.0% (全国通過率差-25.1%)

<B問題>  
 ◎一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。(棒グラフと帯グラフから読み取れる情報を適切に判断する。) 0.0% (全国通過率差-23.9%)  
 ◎メモ1と2は、それぞれグラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。(メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。) 12.5% (全国通過率差-8.2%)

## 標準学力調査に向けた重点取組

- ・次の視点に重点を置いた授業改善を行う。
- ①四則計算などの基本的な知識・技能を、学級の全ての児童へ確実に身に付けさせる。
- ②問題の中にある資料(図・表・グラフ)の中から必要な情報を取り出し、考え整理し、算数用語を使ってペアや全体に論理的に説明する学習活動を仕組む。
- ③必然性のある導入を受けた課題設定を目指し、算数科の学びが日常生活に活かせるような学習活動を設定する。

- ・児童にとって未読の読解問題に数多く当たらせ、問題に慣れさせる。
- ・25分間の「ぐんぐんタイム」を確実に保証し、短時間に集中して問題に取り組ませ、基礎的・基本的な計算力を定着させる。
- ・過去問の通過率の低かった問題を何回も解かせ、弱点を克服する。(校内職員も協力する)
- ・通過率40%未満の児童に対しては、継続して「ぐんぐんタイム」で前学年の内容にもどって復習させ、確実に力をつけさせる。

## 取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。</li> <li>・改善計画を作成し、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員に改善計画の周知を図る。(学向委)</li> <li>・「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。</li> <li>・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> <li>・H30「全国学力」の検証をする。(伸びを見る)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30「標準学力調査」</li> <li>・誤答分析とつまずきに対してのフォローアッププリントで克服する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定テスト(まとめのテスト)の結果の交流。</li> <li>・各学年の誤答分析と対策を実施する。(春休み)</li> </ul>
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年課題のあった設問の復習をする。(ぐんぐんタイム)</li> <li>・全学年授業改善の実践 沼田小スタンダード・発表名人の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・学期末テスト</li> <li>・6年生H30「全国学力」テストの実施、解説。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【検証】標準学力調査 目標値 全学年通過率80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・5年生H30「全国学力」テストの実施、分析、課題克服。(通過率75%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当学年の検定テスト実施。</li> <li>・つまずきに対してフォローアッププリントで克服する。</li> </ul>

主体的に学ぶ児童の育成を目指した授業(課題設定・集団解決に重点)の実施/ぐんぐんタイムにおける基本的な計算力の徹底

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	理科
本校	58.0
広島県	63.0
全国	60.3

本年度の結果について

○取組の成果と課題  
 ・昨年度の各種学力調査結果から、①問題が何を聞いているのか理解できていない②理由を適切な理科学用語を使って論理的に説明できていないという課題があった。そこで、次の3点を工夫して取組を行った。①少人数学習のメリットを活かした一人一実験・一観察ができる学習づくり②問題の情報を適切に読み取り、関連・整理しながら論理的に書く力の育成③日常生活と理科的事象を結び付けた指導である。その結果として、理科的な知識及び技能が確実に全ての児童の習得へと結びついていない。一人一実験・一観察を実施しているが、体験を伴った理解が確実にできていないという課題がある。また、過去問に数多く触れさせることによる、既習事項の定着も不十分だった。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題  
 ・「流れる水のはたらき(12.5%)」「電気の回路(37.5%)」「食塩水(37.5%)」「野鳥の観察のしかた(37.5%)」など、基本的な知識が理解できていない。問題の中の情報や出題の意図を読み取れていないことも依然として課題である。(読解の問題)

重点課題

- ◎ 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。(より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述できる。) 12.5%(全国通過率差-7.6%)
- ◎ 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。(安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥を観察できる方法を構想できる。) 37.5%(全国通過率差-44.6%)
- ◎ 風の吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ。(乾電池のつなぎ方を変えると、電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる。) 37.5%(全国通過率差-26.0%)
- ◎ 食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ。(物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。) 37.5%(全国通過率差-5.2%)

標準学力調査に向けた重点取組

- ・次の視点に重点を置いて授業改善を行う。
- ①必然性のある導入を受けた学習課題の設定を目指し、探究的な学習を進める中で既習事項を確実に理解させていく。
  - ・一人一実験、一観察をさせ、予想→実験(観察)→考察→まとめまでの一連の学習を意識し、ノートやワークシートにまとめさせる。
- ②問題の情報を適切に読み取り、関連・整理しながら論理的に書く力を日頃からつけさせる。(国語科と関連して)
  - ・理科の問題も過去問を中心として日常的に解かせ、慣れさせておく。
- ③日常生活の理科的事象を授業で取り上げるなどし、理科的事象に関心や親しみをもつことができる児童を育成する。
  - ・図書の本やICT機器(動画など)の活用

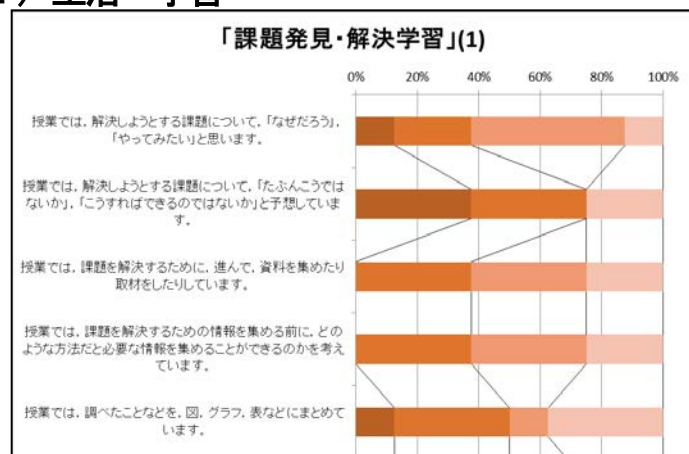
取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。</li> <li>・改善計画を行い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有をする。</li> <li>・実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。</li> <li>・全職員に改善計画の周知を図る。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストにて改善計画の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストにて改善計画の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト・学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> <li>・H30「全国学力」の検証をする。(伸びを見る)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30「標準学力調査」</li> <li>・誤答分析と取り組みの共有をする。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定テスト(まとめのテスト)の結果の交流。</li> <li>・各学年の誤答分析と対策を実施する。</li> </ul>
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年課題のあった設問の復習をする。</li> <li>・全学年授業改善の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・学期末テスト</li> <li>・6年生H30「全国学力」テストの実施、解説。</li> </ul>	<p>【検証】標準学力調査 3～6年 標準学力調査の実施(通過率80%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・5年生H30「全国学力」テストの実施、分析、課題克服。(通過率75%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当学年の検定テスト実施。</li> <li>・つまづきに対してフォローアッププリントで克服する。</li> </ul>

一人一実験・一観察で確実な指導の実施/課題発見・解決学習による科学的な思考を育てる指導の実施

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

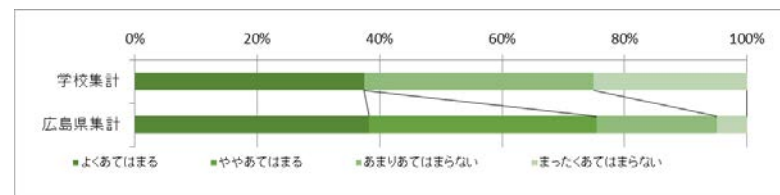
(1) 生活・学習



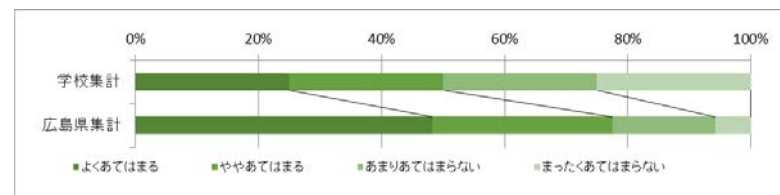
児童生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
・「授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。」(37.5%)となっている。主体的な情報の収集・選択をしようとする意識が児童の中にあまり表れていない。	・情報収集・選択の方法について指導するとともに、総合的な学習の時間をはじめとした、いろいろな教科で、課題発見・解決学習を仕組み、児童自らが課題解決するための方法を考えさせていく授業改善を行って行く。	5	70.0	再度アンケートを行う。	年度末		

(2) 教科

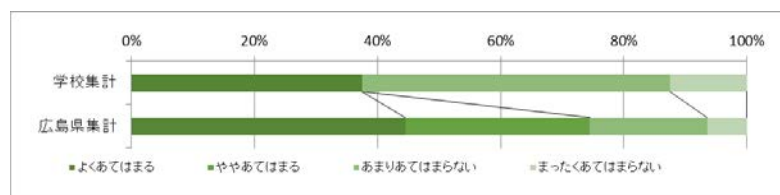
国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	・「国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。」(37.5%)となっている。文学的文章や説明的文章を主体的に読み取っていかうとする意識が育っていない。	・筆者の目的や意図を考えながら（主体的に）読み進めていく授業を取り入れていく。主体的に読み進めるための力である語彙力をつけさせるため、読書量を増やす取組や辞書引きを日常的に継続して行っていく。	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		
算数	・「算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」(50.0%)となっている。算数科の学びが日常生活への関心とあまり結び付いていない。	・必然性のある導入の工夫など、日常生活の中に算数的要素を教師が見出し、実生活に生きる算数科の学習となるようにする。	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		
理科	・「理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」(37.5%)となっている。理科の学びが日常生活への関心とあまり結び付いていない。	・探求型の授業展開を基本とし、必然性のある導入の工夫など、日常生活の中に理科的要素を教師が見出し、実生活に生きる理科の学習となるようにする。	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		